



たなべさきろう
田邊朔郎
(1861~1944年)

土木工学者。東大や京大の教授を務めたほか、数々の土木建設事業に携わり、晩年は関門海底トンネルの踏測にも従事。



きたがきくにみち
北垣国道
(1836~1916年)

維新の志士としても活躍した、官僚・政治家。第3代京都府知事として11年間在任。地域開発や教育にも尽力した。

二人の偉業

運命に引き寄せられ、
京都に「命の水」をもたらした

琵琶湖から京都へ水を引く
——それは数百年前から、
京都の人々が抱き続けてきた願いだっただ。
技術・資金など多くの困難が立ちほだかる、
その壮大な夢をついに実現したのが、
北垣国道と田邊朔郎という二人の人物だ。
「京都の未来のために、何が何でも
この計画を成し遂げてみせる！」
熱き想いで志を共にした、
二人の出会いと偉業を振り返る。

※取材協力・資料提供:京都市上下水道局

運命的な出会いによつて実現した 京都を甦らせる未曾有の大工事

時は明治。幕末の戦火と東
京遷都で、京都の人口は激減。
かつて都として栄えた街は、
衰退の一途をたどっていた。

そんな中、1881年(明治
14年)に第3代京都府知事に
就任したのが、北垣国道であ
る。北垣は京都の復興と近代
化を大テーマに掲げ、琵琶湖
疏水の建設を決意する。

一方、時を同じくして、工部
大学校(現・東京大学工学部)
で土木を学んでいたのが、田邊
朔郎だ。田邊は「琵琶湖疏水
工事の計画」を卒業論文に選ぶ
と、現地に測量に出向き、精
緻な製図を描いて、1883年
(明治16年)に論文を書き上
げる。

そして、当時の工部大学校
校長・大鳥圭介の仲介により、
北垣と田邊は引き合わされる
こととなる。後に苦楽を共に
し、未曾有の大工事を成し遂
げる二人が、運命の出会いを
果たした瞬間だった。

北垣は工事責任者として、
田邊を迎え入れた。大学を出
たての21歳の青年に、これほど
の大役を任せたとすることは、
並々ならぬ思い入れがあった
のだろう。こうして1885年
(明治18年)、琵琶湖疏水の
工事がスタートする。

しかし、工事は決してスムー
ズに進んだわけではなかった。
方々から浴びせられる反発の
声に、北垣は誠心誠意対応し、
説得に努めた。田邊もまた、
前例のない大規模工事を試行
錯誤しながら進めていく。現
場で自ら技術者の養成も行っ
た。北垣の熱意と田邊の頭脳。
この2つが出合わなければ、今
の琵琶湖疏水はなかったかも
しれない。

1890年(明治23年)3
月、ついに琵琶湖疏水(第一疏
水)が竣工。その年の11月、田
邊は北垣の娘・静子と結婚す
る。これにより、二人は名実
共に親子となった。

